

越前筆筒「Mobile-Cabinet」を開発し販売展開が実現

ファニチャーホリック(福井県)

代表者: 山口祐弘氏は、伝統的工芸品「越前筆筒」を生産している福井県越前市にて、家具製作工房「Furnitureholic」を設立し、オーダーメイドの家具づくりを営んでいる。

1. 相談のきっかけ

・平成26年、福井市内で開かれたファッションショーに向け、相談者は仲間から「越前筆筒を使ってファッションアイテムを作れないか」と言われたことをきっかけに越前筆筒型の大型バッグを開発。
・多くの反響を集めたものの、重量が14Kgと重く、量産・商品化に悩んでいた。
・その折、たまたま取引先の武生信用金庫の紹介で当拠点を知り、昔を思い起こさせるだけではなく、今のライフスタイルに合った筆筒を製作したいと考え、小型軽量化に対してアイデアを求めるべく相談に至った。

2. 課題整理・分析

- ①持ち運びの利便性を考え、キャリーバッグサイズ程度にまで小型化が必要であった。
- ②ただし小型化しても、強度の保持と軽量化が必要であった。
- ③またデザイン性と生産性を考え、引出しの大きさや組合せのパターン化を図ることも必要であった。
- ④製品イメージから、対象ペルソナは30~40才代の在日外国人とし、格好良く使うデザインに仕立てることが有効と判断。

3. 解決策の提案

- ①他バッグ製品と比較し、軽量化後の重量目標を6Kgと設定。計算の上15mmの材料板を9mmにすることを助言。
- ②当拠点の相談先でもある、P社の樹脂含浸技術と日本原子力研究開発機構の連携協力を依頼。軽量で強度のある桐板の調達も提案。
- ③デザイナーのSCOが全体のバランスを見ながら引出しの組み合わせ等についても助言。
- ④月に5本程度の一定ロットの注文が来たら、筆筒組合の仲間に、量産の応援をしてもらうことも提案。

4. 成果

・試作品が仕上がった時点で、平成27年9月10日に丹南ケーブルテレビの取材、同年11月19日ガイアの夜明けで放映された。さらに、試作品が掲載された2月24日朝日新聞デジタル版がYahoo!のトップページにアップされると、翌25日には日本テレビ「Oha!4 news Live」でも放送されるに至った。
・20~30万円の商品にも係わらず、2月25日には、16件の問い合わせがあり、その内6人は価格の確認、10人は購入する前に実物を確認したい、との要望をいただいた。
・さらに海外に在住している2人の方も、是非とも引出しの組合せなどの確認をしてオーダーしたいと連絡があり、羽田空港内のお店からも取扱いしたいとの要望があるなど、引き合いが殺到し始めた。5月中旬に東京新宿京王百貨店での「NIPPONの技 伝統の匠展」にも出店が決定し、その会場で引き合いがあったお客様に現物を確認してもらうように手配した。
・現在は、ちょうど樹脂含浸して強度を向上した桐板を使いいくつかのバリエーションを用意して商品開発完了を迎えている。量産応援を取り付けることで、今後さらなる受注獲得が見込まれる状況である。



<仕上がった試作品の様子>